

第1回摂津市行政経営戦略審議会 <要点録>

開催日時	令和7年9月4日（木）10時00分～12時5分
開催場所	摂津市役所 7階 講堂
次第	1 委員委嘱式 (1) 委嘱状交付 (2) 市長あいさつ 2 審議会 (1) 委員紹介 (2) 会長及び副会長の選出 (3) 摂津市行政経営戦略について～将来のあり方について～ (4) その他
出席者	榎谷委員（会長）、久委員（副会長）、大矢委員、柏原委員、川上委員、島内委員、辻委員、橋本委員、吉田委員、米田委員
欠席者	切東委員
事務局	市長公室：平井市長公室長、有場副理事兼秘書課長、古賀副理事兼政策推進課長 政策推進課：橋本課長代理、坂下主事、西岡主事 株式会社地域計画建築研究所大阪事務所：田口氏

議 事 の 経 過	
発 言 者	発 言 内 容
1. 委員委嘱式 (1)委嘱状交付一略— (2)市長あいさつ	
市長	本日は大変にお忙しい中、摂津市行政経営戦略審議会の委嘱式にお越しいただき誠にありがとうございます。また、日頃から摂津市の様々な取組にご理解とご協力をいただいておりますことも心から感謝申し上げます。そして、今回この審議会の委員をお引き受けいただき本当にありがとうございます。重ねて御礼を申し上げます。 摂津市行政経営戦略は、本市がまちづくりを進めていく、様々な取組を行っていく、その基本となるものでございます。現行の摂津市行政経営戦略は、令和3年3月に策定し、計画期間が令和7年度までとしていたところ、現在、期間を1年延長しております。皆様方には新たな摂津市行政経営戦略について、どのようなものにすべきなのかということについて、それぞれのお立場からご意見をいただけると非常にありがたいと考えています。 今、わが摂津市の置かれている状況ですが、まず財政状況につきましては、これまでと比べると、物価高騰も含め、非常に厳しい状況が待ち受けています。一方で、日本全国で人口減少の時代に入っていますが、本市は辛うじて人口維持できている状況だと思っております。ただし、ご存じのとおり千里丘をはじめ安威川以北では人口が増えておりますが、安威川以南では減っていて、人口の格差が非常に大きな課題であると感じております。

	そういった中で、持続可能というだけではなく、様々な資源を活かし、持続して発展していくまちをつくっていきたいと思っています。そのためにどのような取組をしていくべきなのか、その根本となる摂津市行政経営戦略について、皆様から様々なご意見をいただきながら、基本構想からしっかりと議論していきたいと考えているところでございます。 現在の基本構想では、「みんなが育む つながりのまち 摂津」を大きな目標にしております。もちろん「つながりのまち」といったものをこれからも目指していくわけですが、「つながる」ということについては、これまでの地縁が中心の取組から段々と変わってきている状況もあり、そういったことを踏まえて、これからしっかりと作っていきたいと考えているところでございます。 皆様方には本審議会に参加いただき、忌憚のないご意見をいただきながら、より良い摂津市行政経営戦略を作っていきたいと考えておりますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。
事務局 (有場副理事)	ありがとうございました。嶋野市長は公務の都合上、ここで退席いたします。
2. 審議会	
事務局 (有場副理事)	続きまして、第1回摂津市行政経営戦略審議会を開催いたします。本日の会議につきましては、全委員11名中、10名のご出席をいただいております。半数を超えておりますので会議が成立しておりますことをご報告申し上げます。
(1)委員紹介一略—	
(2)会長及び副会長の選出	
事務局 (有場副理事)	続きまして、会長及び副会長の選出に入らせていただきます。摂津市行政経営戦略審議会規則の規定上、会長、副会長は互選により選任することとなっており、事前に事務局において調整させていただいた案をご説明します。 摂津市行政経営戦略につきましては、後ほど詳細についてご説明させていただきますが、基本計画に当たる部分を各分野計画と原則一致させており、施策の進捗管理は各分野計画の審議会において実施しているところでございます。 本委員会の会長につきましては、各分野計画の審議会に委員として最も多くご参加いただいております摂津市社会福祉協議会会長の榎谷佳純様にお願いしたいと考えております。 また、次期摂津市行政経営戦略については、現在同時に策定を進めております摂津市協働のまちづくり推進計画と連携を図りながら進めていく必要があると考えております。そのため副会長につきましては、摂津市協働のまちづくり推進計画策定委員会の会長であります、近畿大学名誉教授の久隆浩様にお願いしたいと考えておりますが、よろしいでしょうか。
	(異議なし)
事務局 (有場副理事)	異議なしというお声をいただきましたので、それでは、会長は榎谷委員、副会長は久委員に決定したいと思います。榎谷会長と久副会長は正面の席にご移動をお願いいたします。 それでは委員長就任に当たりまして、榎谷会長からごあいさつをいただきたい

	と思います。よろしくお願いします
榎谷会長	ただ今、摂津市行政経営戦略審議会の会長にご推挙いただきました、榎谷佳純と申します。副会長にご就任をいただきました久委員をはじめ、委員の皆様方のご協力をいただき、新しい摂津市行政経営戦略の策定に当たり、実りある提言が得られますよう審議会の円滑な運営に努めてまいる所存でございます。どうぞよろしくお願いいたします。 私は、今から 15～16 年前に現在の摂津市行政経営戦略の前身である、第 4 次摂津市総合計画の審議会及びその策定に向けて市民目線での提言をまとめた、まちづくり市民会議にそれぞれ委員として関わり、目指すべきまちの将来像として「みんなが育む つながりのまち 摂津」、また、このまちに関わる皆が連携、協力をして、まちの歴史や文化、地域の資源を大切に、自然や環境との調和を図りながら、まちと共に育ち合う、まち育てという新しい発想などを、取り組むべき基本姿勢として行政に提言をいたしました。 実は 15～16 年を経た今も、想いというものはあまり変わっておりませんので、これから皆さんと審議をさせていただきます新しい摂津市行政経営戦略にどのように向き合えるか、冒頭申し上げましたとおり、委員の皆様方のご協力をいただきまして審議会の円滑な運営に努めてまいる所存でございます。改めまして、よろしくお願いいたしますを申し上げます。
事務局 (有場副理事)	ありがとうございます。これ以降は榎谷会長に議事進行をお願いしたいと思います。よろしくお願いいたします。
榎谷会長	それでは次第に沿って進めさせていただきます。案件 3 の摂津市行政経営戦略について、事務局から説明をお願いいたします。
事務局 (古賀副理事)	資料 2 に基づき、説明。
榎谷会長	ただ今、摂津市行政経営戦略について説明がありました。委員の皆様からご意見、ご質問等はいかがでしょうか。
吉田委員	私の感想ということでお聞きいただければと思います。鳥飼まちづくりグランドデザインの審議会委員であった令和 3 年度に、摂津市行政経営戦略の冊子を頂戴しました。そこに書かれている理念や個々に設定されたテーマについては、非常に素晴らしい内容の戦略であると感じました。 特に「協働のまちづくり」という理念については、われわれ市民の役割も明確に記載され、行政も対等の立場で取り組むということを高々とうたっておられます。これは素晴らしいと思って拝見し、また、ホームページで前身の第 4 次摂津市総合計画もプリントアウトし、各項目の比較表も自分で作り、読み込ませていただきました。 先日、摂津市協働のまちづくり推進委員会の会議もございました。先ほど榎谷会長がおっしゃったように、摂津市では「摂津市における協働と市民公益活動支援の指針」を総合計画の発足と同じく平成 23 年に作られています。協働という言葉を中心に、おそらく当時から今の社会状況を想定して、いわゆる少子高齢化の中で、市民生活、市民活動の中心たる自治会や老人会、子ども会の活動が、

	人口変動、構成変動とともに変わっていくのを先取りし、いろいろな団体が横につながり、事業所も加わって、そういうまちづくりを目指しましょうという理念、指針をきちんとまとめられていることを最近知りました。 したがって、考え方としての理念や認識というのは、摂津市行政経営戦略を拝見する限り、また過去のいろいろな取組を拝見する限りは、立派に将来の姿を想定された計画をお作りになったのだろうという認識を私は持っております。 それを踏まえて現行を見ると、私は自治連合会の会長という職を今年からお受けし、現状を認識するために各自治会長にもアンケートを取り、現状どうですかということの確認作業をさせていただき、9月11日の役員会で報告する段取りになっています。残念ながら、この間の取組により改善できてよかったという報告ではなく、当時に懸念された状況がそのまま顕在化しているのが今だという認識を持つに至っています。 そのため、令和9年度からの摂津市行政経営戦略を策定するに当たっては、過去にそういう推定の下に取り組んできたが、何ができて、何ができていないのか、できていない原因は何なのかというところの整理し、共通認識を持たないと、皆さんとまとまった審議ができないのではないかと考えております。 私は専門家ではなく、自治会を通じた市民団体活動の中での感覚しか意見を申し上げられません。しかし、市民活動も多岐にわたっており、特に最近は防災、防犯含めて、担い手がいらない分、役割が特定の人に集中し、また地域によっては空白地が出ているということを聞いていますので、それをどうやって皆で埋めていくのだろうということも、安心のまちづくりには不可欠な要素だと思います。 まずもって摂津市の現状はどうか、併せて類似の他市状況も参考にしながら考えないと、なぜできたのか、なぜできていないのかというところが分からないのではないかと思います。皆様方と一緒に意見交換させていただけたらという思いで、この席に座っております。どうぞよろしくお願いいたします。
榎谷会長	事務局から何かありますか。
事務局 (古賀副理事)	今後のスケジュールにもお示ししておりますように、これまでの5年間で摂津市行政経営戦略において取り組んできたことに対する総括作業、各分野計画でKPIを立てておりますが、それに対して、なぜ目標が達成できなかったのか、何が足りなかったのかということについての分析を現在進めております。委員の皆様にもお示ししながら、できなかったことについては反省し、考察を行います。 吉田委員からもご指摘がありました他市状況のことや、場合によっては、もう少し広域的な視点も取り入れながら、今後の摂津市行政経営戦略にどういったKPIがふさわしいのか、どういった取組が必要なのかといったことについて、全庁を挙げて検討していく必要もありますので、皆様の貴重なご意見をいただきながら、次期摂津市行政経営戦略に反映していきたいと考えております。
榎谷会長	議論をする前提として、この15～16年間、つまり第4次総合計画と、それを引き継いだ摂津市行政経営戦略の中で、吉田委員が指摘された、何ができて、何ができていないのかという総括が必要です。基本構想、基本理念の中で、皆が横

	のつながりを持つ摂津というまちの将来像を掲げて、いろいろな取組を進めてきたわけですが、今の姿がそういう姿になってるのかどうか、もしなっていないとすれば、何をさらに施策として進めていけば、将来像が実現していくのかという議論ができればよいのではないかと思います。ぜひ今後の審議会の中で忌憚のないご意見をいただければと思っておりますので、よろしくお願いをいたします。 その他に各委員からご意見、ご質問はいかがでしょうか。
米田委員	摂津市行政経営戦略における各施策を展開し、各部署が事業として実行するという流れを考えたときに、職員側の意識はどうかということを確認する必要があるのではないのかと思いました。本審議会の目的は、市民、地域に対する行政サービスの戦略を決めていくことだということは十分分かっているつもりですが、結局、立派なものを作ったところで、それを実行するのは職員の皆さんなので、職員の意識及び理解度が非常に重要になってくるかと思います。その辺りはどういうお考えでしょうか。
榎谷会長	事務局はいかがでしょうか。
事務局 (有場副理事)	米田委員ご指摘のとおり、われわれもその認識を持っております。庁内における会議体として、市長をトップとする摂津市行政経営戦略推進委員会という会議体を作っております。今後、KPI の内容も含めて、各部局との協議も進めていく予定でございます。先ほど吉田委員からも協働のお話がありましたが、そういったところも含めて、どのような意識で、どのような考えを持ってやっていくのか、関係部局と協議を進めていきたいと考えております。
榎谷会長	職員の皆さんの意識というのは、ご指摘のとおり、とても大切な要素であると感じます。各管理職の皆さん、あるいは中堅、若手の皆さん方の意識がどうかということ、摂津市行政経営戦略という大きな意味での市の取組に対し、どの程度自分の仕事に関係しているかという意識があるのかということなどを常に検証していかないと、なかなか進んでいかないと思います。そういった職員の皆さんの意識ということについても本審議会にご報告いただければありがたいと思いますので、米田委員のご指摘を踏まえた取組をどうぞよろしくお願いしたいと思えます。
川上委員	ワールドカフェはどのような感じで進められるのでしょうか。ワールドカフェで集まった人たちが、例えば自治会が衰退しているのはなぜかといったことなど具体的なことを話すならよいのですが、漠然と市の取組についてどうかと尋ねられても、自治会活動をしている人や、子育ての取組に関係しているような人など、多様な属性を持つ人が集まり過ぎると、逆に焦点がぼけて、何をどう話してよいのか分からないということもあるかと思います。 もう1つ、市民意識調査について、実は私の夫にも届きました。夫は内容を見ましたが、回答はしないとのことでした。私が代わりに回答するわけにはいかなのですが、私も見ましたところ、質問内容が多岐にわたり過ぎて、よほど市のことを常に考えていないと回答は難しいと率直に感じました。特に夫は、仕事で昼間は摂津市におられませんし、全然分からないという感じでした。おそらく調査票

	が届いた人で同じような人もたくさんいらっしゃるのではないかと思います。 中学生アンケートはすごくよい取組だと思います。意見をたくさん出してもらえたらと思います。以上です。
榎谷会長	事務局はいかがでしょうか。
事務局 (古賀副理事)	川上委員のご指摘のとおり、ワールドカフェについては、かなり幅広い年代の方に参加していただきますので、摂津市の行政やまちづくりについてという大きなテーマに対する議論はなかなか難しいと思います。そのため、摂津のまちとしての魅力はどんなところか、今後こんなまちであってほしいといった、誰でも答えられる簡単なテーマを、現在、事務局で検討しております。もし委員の皆様からも、こういうテーマを入れると議論がしやすいというなどご提案がありましたら、事務局までおっしゃっていただけるとありがたいです。 また、市民意識調査について、なかなか答えにくいというご意見も実際にいただいております。今回、反省すべき点もあったと思っております。今回の調査については、先ほどの説明でも触れましたが、前回の総合計画におけるアンケート結果との比較、満足度がどれだけ伸びたのか、期待度にどれだけ差が出たのかという分析を行い、それをベースにして、次期摂津市行政経営戦略の策定に活かしていきたいというところがございました。ただ、もう少し何か説明や補足などを入れた上で調査できれば、より市民にも伝わったのではないかと思います。そこは反省として、今後も検討していきたいと思っております。
榎谷会長	ワールドカフェは、中学生アンケートの質問内容のようなものをテーマとして投げ掛けて、いろいろとご議論いただくというイメージであると思います。 実は、地域福祉計画の策定にあたり、先日、地域福祉懇談会を開催させていただきました。安威川以南と以北に分けて、それぞれ時間をずらして集まっていたが、ワールドカフェという方式でいろいろなご意見いただきました。それなりに活発に意見は出ていましたので、多様な方に集まっていただければ、実りあるものになるのではないかと思います。それ以外でご意見ありますか。
柏原委員	市民意識調査の回答率 35.5%というのは、高いのか、低いのか、いかがでしょうか。質問の分量が多いものや興味関心がない場合はどうしてもスルーしてしまうという現状があるかと思います。そのため、アンケートは1つのデータの参考にはなりますが、それを基盤にするということは危ないことだと思います。むしろ、回答しなかった 64.5%の人たちがいったい何を考えているのかということが、これからの市の戦略検討に必要ではないかと思います。 では、どのようにしてその 64.5%の人の意見を聞くのかということについては、先ほど説明のあった中学生アンケートやワールドカフェに来られた方の生の声をしっかりと聞いていく。もちろん市民意識調査は興味関心があるからきちんと答えてくださっていると思いますが、あまりこれをベースにしまうと、一部の人の意見だけではないかという危惧を感じたので、1つの感想として申し上げます。
榎谷会長	事務局はいかがでしょうか。
事務局	市民意識調査の回収率ですが、実は前回の第4次摂津市総合計画の総括の際に

(有場副理事)	取ったアンケートでは回収率が 50%を超えています。ただ、本市で実施している様々なアンケートで最近の傾向を見ますと、今回の 35.5%という数字は、決して低くはないです。では、なぜ前回それだけ高かったかというところですが、実は前は、質問項目が多かったため3つに分けて、それぞれ別々の方に送付しており、質問項目が少なかったので、回収率が高かったという結果に結び付いたのではないかと思います。 アンケート結果を分析する上で、信頼度が重要になりますが、35.5%という数字であれば、信頼度については問題ないと考えております。 また、柏原委員のご指摘のとおり、アンケートだけではなく、ワールドカフェや中学生アンケートなど、いろいろなヒアリングによって進めていきたいと考えております。
島内委員	先ほど、吉田委員が他市と比較する必要性をおっしゃっていました。摂津であれば茨木や高槻、吹田と比較するというイメージがあると思います。一方で、いわゆる地方都市は人口減少がすでに進んでいて、下り坂に差し掛かっています。商工会も同じく、ほとんどの地域において下り坂で事業所数が減少しています。いわゆる地方の方が先に減少が進んでおり、人口減少についても同じで、参考にすべきなのは、地方ではないかと思います。 先日、熊本県の事例を勉強しました。内容としては、地方の方が都市部に比べ、人口減少に関する問題が5年、10年進んでいる状況です。摂津市は人口が8万7千人で、比較的資源がたくさんある状況ですので、今であれば、例えば5年、10年後に起こることを、食い止められるという発想ができると思います。タイムマシンに乗るようなイメージで地方を見れば、摂津市の5年、10年先が見えてきます。 先ほど吉田委員がおっしゃっていた、いわゆる理想と現実のギャップの部分はどう埋めていくのかというのは、実は地方に結構ヒントがあるので、参考にしていただけたらと思います。摂津市行政経営戦略という未来をつくる計画だと思うので、比較するなら地方と比較していただき、地方で現在起こっていることが、摂津市で5年、10年後に起こる。そうであれば、今何をしたら良いのかという提言ができるというような会議になるのではないかと思います。
榎谷会長	おっしゃるとおりで、すでに急激に人口減少している自治体も多いと思います。摂津市はずいぶん先になったら7万人程度になるという人口推計を出されているわけですが、そういう意味では、すでに人口減で、少子高齢化が進んでいる中で、行政としての対応、施策をいろいろと考慮されている自治体はたくさんあります。そういった社会情勢の中でも逆手にとって、活性化を図り、住みよいまちの魅力を発信している自治体もたくさんありますので、参考にしていただければと思います。事務局はいかがでしょうか。
事務局 (有場副理事)	おっしゃるとおり、先ほども本市の人口の現状と推計について説明しましたが、全国的に見ると、本市の人口は現時点では維持できているという状況で、地方ほど深刻な状況にはないと言えます。しかし、将来的には社会保障・人口問題研究所の推計でも減少していく傾向にあります。

	おっしゃるとおり、地方になればなるほど、かなり深刻な状況になっているところもございますし、その自治体で実施している施策がどんなものなのかということは、非常に参考になると思います。 一方で、摂津市全体で見ればこういう状況ではありますが、地域別でも特色があります。市長の冒頭あいさつでも安威川以南の問題の話もございましたが、川を挟んで北と南で異なる動態になっているという点も、本市の1つの特徴であると思います。以北は人口が増えてきており、まだ増える可能性もあります。 そういったところも含めて、行政として対処していく必要があると考えております。
吉田委員	今のお話のことで、以北は確かに人口が増えます。鳥飼地区は令和3年に立ち上がった鳥飼まちづくりグランドデザインという計画に基づき、専任の職員が体制を組んで、取組を進めている現状があります。 ただ、以北は人が増えるから安心だ、以南は人が減っているから大変だという単純な問題ではありません。先ほども申し上げたとおり、自治会でアンケートを取りますと、南北に限らず、どの自治会も加入者が減り、後継者がいなくて、自分が会長を辞めたらこの自治会は消滅するかもしれないという危機を抱えています。 確かに、開発やインフラ投資を以北に10対1ぐらいの割合で投資をされて、以南は放置されたままだと住民が言うぐらいに、格差が出ています。それをどうしようかとやっているのに、鳥飼まちづくりグランドデザインからは、この数年経過しても方向性の修正や具体的にこうするという動きが、特に令和6年の後半から7年にかけては何もないです。もう一方で、目玉であった国の事業である防災ステーションの話もほとんど話題が入ってこず、頓挫しています。 摂津市は淀川もあり、それにより財産になるところがたくさんあるものの、全然活かしきれていない。課題だと思ったところが、まだ何も着手せず、進展していない。人口が増えると喜んでいたとしても、足元で構えるコミュニティとして、現在、自治会長等で頑張っている方々が、将来の展望が見えなくて、どうしたら良いのかわからないという現状がございます。その認識をきちんと持っていていただくことが1つです。 それから、今回の摂津市行政経営戦略の検討を進めるに当たって、広く市民にも共通認識を持ってもらい、意見も聞いてということをおっしゃっていますが、そもそも摂津市行政経営戦略の冊子を持っている方が限られているということが問題です。例えば、最近できた都市計画のマスタープランや交通計画ということについて、自治会長にアンケートを取っても、内容を知らないという人が多いです。よく知っているのは2、3人で、そういう計画があるのは知ってるいるが、中身までは知らないという人が多い。それについて勉強しませんかと言ったら、興味があるのでぜひ行きたいという方が多いです。 これは基本的に、市が施策をいろいろ進めていただいて、市のホームページを見にいけば分かりますが、それができない方はまったく知らないままに今に至っています。だから、いかに皆さんに共通認識を持ってもらうかということが重要

	です。アンケートやワールドカフェで意見を聞こうと思っても、参加される方にそれなりの情報や知識がないと、なかなか良い意見が聴きにくいということもあると思います。 かなりハードルが高いと思いますが、新規採用職員も含めた市の全職員が摂津市行政経営戦略を理解している体制を取らないと、仕事に差し障りが生じると思います。 それから、協働の重要性を掲げているのであれば、地域で主だった活動をしている方には少なくとも全員に配って、読んでもらい、感想を聴くぐらいのことをしないといけない。スタートラインができていないので、今の状況があるのではないかと私は感じています。 それと、もう1つだけ。先ほど熊本のお話がありましたが、頑張っても人口が減少し、困っていらっしゃる地方もありますが、摂津は災害も大きくないですし、山や谷もない。鳥飼は住んでいる方は少なく、今後もさらに少なくなります、昼間の人口は非常に多いです。夜間と昼間人口の比率から見ると、以前のデータで申し訳ありませんが、1万2千人ほど昼間の方が多いです。そのほとんどがおそらくは鳥飼地区の、事業所群の中に他市から来ていらっしゃる。そして仕事が終われば、他市に帰っていかれる。それはもったいないということはかなり以前からも言っていますが、ではその人たちが摂津に住んでもらうにはどうしたら良いのかという取組がもうひとつ感じられないです。 鳥飼のまちづくりは、今、子どもがかなり減って、2つの中学校、4つの小学校が、将来的には1つの中学校、1つの小学校で足りることになります。推計で見ると、2057年ですでに、生徒、児童の合計が920人ぐらいの規模になると想定されていて、それは今の摂津小学校の980人より少ないです。 そうすると、広大な学校跡地をどうするのかということも考えていかなければならないことも何年も前から分かっているのに、今やっているのは、鳥飼東小の跡地をどうしようかということだけに絞ってやっている。そうではなく、鳥飼エリア全体で考えるのであれば、これから起こる次の統廃合によって空く広大な跡地をどのように利用していけば、茨木市などの他市に帰っていく人たちが居を構えてくれるのかということまで発想すれば、まちづくりというのは非常に夢のあるところに持っていけるはずです。そういった夢をどなたが描いているのかというところが見えない。私は何年もこれをずっと思っていて、ずっと口に出していますが、誰も何も反応していただけてなくて、こういう機会をいただいたので申し上げます。 足元にある点と点を全部つなげていけば、もっと素晴らしい絵が描けるのではないかと。そういったことを盛り込んだ市全体の戦略にしていいただければありがたいと常々思っております。
榎谷会長	ありがとうございます。他の委員の皆さんのご意見もお伺いします。
辻委員	現行の摂津市行政経営戦略の策定の時に、懇談会に出させていただきましたが、これを策定された当時はSDGsの話が出てきて、施策とラベリングしました。また、コロナの発生もあり、反映したと記憶しています。

	現在、温暖化もどんどん進んでおり、今、すごく暑い状況になってます。温暖化や少子高齢化は私が小学生の頃からずっと言われています。30 年以上言われているにもかかわらず、例えば、少子高齢化を一自治体で食い止めるというのはなかなか難しいとは思いますが、マクロを前提に自治体運営をされて、それを食い止めているという自治体はほとんどないのではないかと思います。 先ほど島内委員がおっしゃったとおり、リスクというか、課題がすでに顕在化してしまい、防止というより対処ということを継ぎはぎでできているところが多いと感じています。 市民意識調査で、平成 27 年、令和 2 年の結果と比べて、この間の取組でこれが悪かった、これが良かったというところは、次の施策を考える時には非常に大事だと思います。しかし、結局それは以前の事業の引き直しに過ぎなくなってしまっているのではないかと思います。したがって、今回、本審議会に関しては、以前の事業の引き直しではなく、抜本的とまでは言いませんが、先ほどの学校統廃合で資産が出てくるのであれば、それを何に使うのかといった、引き直しではない新しい取組の検討、そして、少し俯瞰的にマクロの状況を捉えて考えていきたいと考えているところです。 また、市民意識調査やワールドカフェについては今回、計画を策定するに当たっての 1 つの目玉だと思いますが、実際、市の魅力や市の悪いところというのは、なかなか市民だと気付きにくいという視点もあると思います。生活ができてさえすれば、なんとなく、良い点も悪い点も、普段、目を向けずに生きていると思うからです。実際、私も基本的にほとんど大阪市で活動をし、摂津市は寝に帰るだけのところになっております。例えば、大阪市であれば、ごみの分別は全くしなくていい。しかし、摂津市はきっちりごみの分別をしている。おそらく、摂津市にしか根差していなければ、ごみの分別は当たり前だし、していない自治体があるとは思えない。ワールドカフェやアンケートでは、摂津市在住の人以外にも広く募っていただく必要があると思います。魅力というのは、市内にいるとなかなか感じにくい。悪い点も、市内にいますと、生活できている以上は感じないというところが多いと思うので、そういう人たちからの意見も取り入れながら考えていくべきかと存じます。
榎谷会長	ありがとうございます。辻委員がおっしゃったように、意外に摂津市民には見えてこない部分があると思います。他市からの学生さんや通勤している方々にもワールドカフェに積極的に参加いただくように取り組んでいただければと思います。地の人と風の人という言い方をよくしますが、違った視点、新しい視点でいろいろご指摘もいただきながら、また、住民がいろいろ感じている部分と合わせながら、議論ができるような場をうまくコーディネートしていただければ良いと思います。事務局はいかがでしょうか。
事務局 (古賀副理事)	辻委員からもご指摘がありましたように、やはり、摂津市民だけではなく、他の市町村に住んでいらっしゃる方から見る摂津市という視点も重要であると思っています。今回、ワールドカフェにつきましては、市内企業にお勤めの方も参加いただけるということにしています。また、実は大阪人間科学大学にもご協力

	をいただくこととしており、他市にお住まいの学生さんもおられますが、そういった学生さんにも参加いただけるような形式で、お声掛けさせていただいているところです。摂津市民に限らず、幅広く多くの方が参加できるような形式で周知をしていきたいと思っております。 ただ、アンケートについては、他市に引っ越しされた方や他市から転入されてきた方を対象とすることも手法としてはあったかもしれませんが、今回につきましては、すでに終えておりますので、今後のアンケートを取っていく手法に係る検討課題とさせていただきたいと思えます。
大矢委員	初めてこのような会議に参加したので、私は何をしたら良いのだろうかという確認になりますが、令和 8 年 2～3 月の第 3 回に基本構想案が示され、そこで決める。そこからさらに、次の摂津市行政経営戦略の施策体系までを落とし込んでいくという理解でよろしいのでしょうか。 先ほどから皆さんの意見を聞いていましたら、それについては、おそらくうまくいくだろうと思うのですが、それをどうやって現場に落とし込んでいくかというところが一番の問題だと思っています。審議会ですべて良いものができました、でも実際、どう活かしていくのか、そこを皆さん心配されているかと思えます。 摂津市教育委員会でも、教育振興基本計画や教育大綱というものがあり、先日、次期教育大綱案について市長とお話をさせていただきました。私が教育委員になった最初の 10 年ぐらひは、会議ですべて良い計画ができたものの、実際に学校に落とし込むことができなくて、学力も上がらないし、空回りしていたように思います。一方で、ここ 5 年、10 年ぐらひで、とても良い感じで回りだしているように感じます。それはやはり、教育委員会事務局の指導主事の方がそれぞれ校長や教頭となり、担当職員が実際に現場に行くことによって、すごく良いつながりができたことによるところが大きいです。学校が教育委員会を拒否していたのが、今ではすごく頼りにし、大歓迎になってくれました。だから、そういったところが一番の課題ではないかと思えます。 おそらく理念は良いものができるだろうと思えます。それをどうやって現場に落とし、実践していくのかということが最も重要であると思えます。
榎谷会長	ありがとうございます。先ほどの米田委員の意見とつながる部分があると思いました。
事務局 (有場副理事)	審議会の目的は、基本構想の構築でございます。先ほど吉田委員からのご指摘がございましたが、過去の行政、第 4 次摂津市総合計画、摂津市行政経営戦略において、どう進めてきたのかということも一つの課題でございます。おっしゃるとおり、基本構想を構築した上で、それを現場に落とし込み、実践していくのかということがポイントになると考えます。 摂津市行政経営戦略は基本計画部分を分野計画に原則一致させていますので、その分野計画にどう影響させていくのかという点も重要になってくるかと思えます。委員の皆様からいろいろご意見をいただければと考えております。
橋本委員	市民意識調査について、私も回答しました。しかし、書かれている内容、この

	質問とこの質問の違いは何だろうかというものが結構多かったように感じました。他のアンケートでも「まちの魅力は何か」というような質問はよくあり、いつも答えはするのですが、そのフィードバックが何もない。答えたからどうなるのかという印象を持つことが多いです。私自身も、今、中学校のPTAに関わっておりますが、他の役員の皆さんに言っても、興味がないため、あまり反応がなかったりします。 ワールドカフェなども、参加いただけるのはすごくありがたいものの、何かをやるときに集まるのは高齢の方ばかりになってしまうことがあり、40代や50代、30代や20代もそうですが、これから10年、20年先の摂津市を支えていく人たちの意見があまり反映されていないということがあると思われます。 書いていることは本当に素晴らしいですが、現実とのギャップというものも感じます。地域の困っていること、本当に市民目線の意見というものをもっと吸い上げないと、理想を追いかけるだけになってしまいます。お役所の方は、人集めを人任せにするとところもありがちだと感じたこともありますが、聴く側は、もっといろいろなところに出向き、集客するというところに貪欲になっていただく必要があると思います。開催しました、しかし、申し込みが少ないです、ではなくて、そこをもう少ししっかり考えていかれた方が良いかと思いました。
事務局 (有場副理事)	大変厳しいご指摘いただきました。人を集めるというところは確かに皆さんにお願いする場面も多々あるかと思います。われわれもいろいろ考えながらやっているところではございますが、お知恵をいただければと考えております。 今回、ワールドカフェを実施する際に、柏原委員にもご協力いただき、大阪人間科学大学の学生さんにご協力いただき、計3回ありますが、各回で20名ずつ参加いただく予定でございます。かなり多く来ていただくこととなり、1回目と2回目は当初40名ずつということ計画でしたが、それぞれ50名ずつという形で増員させていただくことを考えております。 どのように人を集めてくるかというところは悩ましいところなんです、引き続き努力していきたいと考えております。
吉田委員	今後の進め方も含めて、お願いがあり、簡単によろしいですか。パブリックコメントも最後に予定されており、また、市民意識調査などで市民の声を聴くということとをされると思いますが、例えば、以前、地域公共交通計画案のパブリックコメントを出された時に、パブリックコメントは出してください、しかし、個別にはやりとりはしませんというただし書きを付けられていました。 パブリックコメントは出しても、それに対しての個別的な確認をせずに、全体意見を聞いてホームページで意見に対する回答をされていました。いろいろな方がセッピー号の運用について、多くの意見を出されていました。しかし、お住まいになっている地域や要望の内容というのは、個人によって状況が異なると思います。 せっかくこれから公共交通の計画を作ろうとして、パブリックコメントを寄せてくれた方に対して、全部が全部そうしろとは言いませんが、この方はどういう環境の中で何を求められているのだろうかという確認のやりとりをしないと、市

	民が意見を出してもそれに対する反応がなかったら、次にまた出そうとは思わないと思います。 今回の全体的な流れとして、皆さんの意見をより多く聴いて作りたいということをおっしゃってるのであれば、ルールとして、パブリックコメントで個別には確認しませんということをして、ただ書きにするよりも、場合によっては内容をさらに確認させていただくこともありますと書いていただいた方が、皆さんが意見を出しやすいと思います。 市民の意見の聴き方に対し、なぜその方はそう言うのかということを確認するという手順は、もっと大切に検討いただきたいということをお願いとして申し上げます。
事務局 (有場副理事)	パブリックコメントのフィードバックということですが、個別事案について把握はしていませんが、パブリックコメントをいただいたことについて、庁内で協議し、きちんと意見を返すというところは今もルール化されております。われわれが出した意見について、配慮が足りなかった部分もあったかもしれませんが、そういったところはないように気を付けていきたいと思います。 先ほどの個別に対応しないという一律的な対応については、全庁的なルールに絡む部分もございますので、持ち帰って検討させていただきたいと思います。
榎谷会長	それでは、最後に久副会長からご意見はございますか。
久副会長	ありがとうございます。皆さんのご意見をお伺いし、私からは2点お話をさせていただきます。 まず、吉田委員が口火を切っていただき、米田委員や大矢委員、橋本委員のお話とも関わる場所ではございますが、6ページの目指す将来像が、第1次、第2次、第3次、第4次と変化してきています。これについて、次期摂津市行政経営戦略で変える必要性はないのではないかと私は思っています。 8ページで現行の基本構想の全体像が示されていますが、言葉としてそのまま持ち続けても良いのではないかと思います。どうしても計画が変わる際には言葉遣いを変えないといけないという錯覚に陥りますが、使い続けられるものはどんどん使い続けても良いと思います。変えようということではなくて、なぜ変えないといけないのかという検討をする方が、より生産的であると考えます。 吉田委員も最初にご指摘いただきましたが、良い言葉が並んでいるものの、10年、15年経過してもこのとおりにないということであれば、それはいったい何が原因なのかというところを考え、それを埋め合わせていく方がより効果的になってくると思いました。したがって、事務局も素案を用意する際に変えないといけないということではなく、変えなくても良い部分は継承していけば良いのではないと考えます。これが1点目です。 それから2点目はワールドカフェについてです。川上委員からご指摘いただきましたが、私も同じようなことを考えていて、テーマとして魅力ということで良いのかというところです。たかだか2回意見を聴くだけですから、その魅力をどんどん出してもらって、それでどうするのかということ。総合計画の中にどう取り込んでいくのか、聴いてどうするのかというところをもう少し考えながらテ

	ーマを選ぶのが良いかと思います。 個人的には、英語でウェルビーイングという言葉が流行りになっていますが、日本語で言うと幸せです。より良い状態で暮らしていくということですから、参加いただいた方が、今、より良い暮らしができているのかどうか、あるいは私がより良い暮らしをするためには何が必要なのかというところをピックアップしていただいて、いわゆる1人1人が幸せに暮らす条件みたいなものを整理し、それを基本構想の柱にするということが、基本構想構築に対し役に立つ議論になるのではないかと考えています。 そういう意味で少し気にしておかないといけないことと言うと、例えば、現役世代の人はもしかすると土曜日、日曜日は放っておいてくれ、静かに暮らしたいんだということが理想像だとすると、吉田委員は困るわけです。地域活動をやってもらいたいと思っているのに、一方で地域活動はもう厄介だから放っておいてくださいということを直接的に聴いて良いのかどうかという話です。 それから辻委員からご指摘いただいたように、ごみの分別はたしかに面倒くさいです。ある総合計画の審議会で、ある委員さんが大阪市の話を持ち出し、大阪市に暮らしていた時は分別しなくてよかった、だから分別はしない方が良いというご意見がありました。しかし、環境問題を考えるときに、分別すると方が重要だという話になって、柏原委員からのアンケートを鵜呑みにしない方が良いというお話とも重なりますが、皆がこういう状態が良いということをそのまま鵜呑みにして聴いて良いのか、逆の発想でお返ししないといけない部分もあるのではないかと思います。 それを防ぐためには、今がどうなのかではなく、あなたの20年後、30年後、40年後のことも考えてくださいという指摘も要るのではないかと思います。島内委員のお仲間で、茨木の商工会議所の専務理事がずっとPTA会長を続けていらっしやいます。その専務理事と話をしていると、ある年の2月に、次の会長が見つからないという話になり、その次の言葉が私は重要だと思い、皆さんに問題提起させてもらいました。どうして退職後のことを皆は考えないのか、と専務理事はおっしゃっています。どういうことかと言うと、私は今頑張ることによって、退職しても地域のつながりができ、その地域のつながりを作っておけば、退職後も楽しく地域で暮らせるという話をされていました。まさしく、今忙しいから会長職は無理ということではなくて、自分の20年後、30年後に地域でどう暮らすかということをその方は考えていらっしやいました。 今の自分の現状を聞くだけではなく、20年後、30年後、自分が仕事を辞めた時、状況が変わった時にどんな地域であってほしいのかということをお聴きおかないと、おそらく現状だけで振り回されると困ると思うので、投げかけ方も工夫していただきたいと存じます。今の状況だけではなく、もう少し将来のことも考えて、地域はどうあった方が自分は幸せに暮らせるのかということをお考えいただくと、より面白いことになるのではないかと思います。 若い人、高校生以上ということになりますが、高校生や中学生にも参加いただく方が良く私は思います。ちなみに尼崎市で十数年前に同じく総合計画を検討
--	--

	する時に、市民ワークショップを行いました。高校3年生にも参加いただきました。その方は今、尼崎市職員になっていらっしゃいます。自分の言ったことを職員になって実現しようということにつながっていらっしゃいます。柏原委員の系列校ですが、近畿大学の1年生に薫英学園から総合型選抜試験で入学した学生が1人います。とてもしっかりしています。しっかりした高校生はしっかりしたビジョンを持っていて、いろいろなことを発言していただきます。中学生だってしっかりした中学生はしっかりしたビジョンを持っていらっしゃるわけですから、年齢にかかわらず、どんどん関わっていただき、より若い人の将来の展望を聴かせていただいて、反映するととても良いワールドカフェになるのではないかと期待します。テーマや参加者への呼びかけ方も再考いただけたら幸いです。以上です。
榎谷会長	ありがとうございます。いくつか大切なご指摘もありましたし、斬新なご提案もございました。ぜひご検討いただけたらと思いますので、よろしくお願いします。 併せて私から、少し細かい話を申し上げますと、中学生アンケートでは「良い」「悪い」という評価を求めるような設問になっています。これについては、「好き」か「嫌い」ということを聴かれたほうが、もっと率直に答えが出てくるのではないかと思います。摂津の良いところはどこですか、悪いところはどこですかということよりも、摂津のまちで好きなところはどのような点ですか、どのような点が嫌いですかといったことを率直に聴く方が、答えやすいのではないのかという気がしました。 もう1つは、お願いというかご提案ですが、小学生にもそういうレベルの設問であれば、アンケートを取られたらいいかかと思います。子供たちは今自分たちが住んでいるまちをどういう具合に思っているのか、どういう具合にしたいのかということについて、少なくとも例えば5年生、6年生レベルであれば、まちについての学習も当然それぞれしています。そういう中で感じていることもあると思うので、お手間だとは思いますが、大矢委員も参加されていますし、教育委員会にもご協力いただき、ぜひ学校経由でアンケートを取ると、結構高い回収率で意見聴取ができるのではないかと思います。 市内には3つの高校が、支援学校を入れると4つの学校がありますから、そういう学校にも少し働きかけていただき、意見聴取、あるいはワールドカフェといういろいろな多世代と一緒に1つの課題について話し合えるような機会を設けられれば、それは素晴らしいと思います。企画を実現いただければ大変ありがたいと、久副会長のご意見を受けてお願いをしておきたいと思います。 それ以外にご意見等がございましたら、お伺いしますが、いかがでしょうか。
大矢委員	榎谷会長のご意見を私も推したいです。小学生や中学生には抽象度の高いことを聴くのではなく、具体的なことを聴く方が良いと思います。昨日も別の会議で話になったのですが、学校が楽しいかというアンケートを取ったときに、例えば、80%が楽しいと言っているが、10%は楽しくない。では、それは何が楽しくないのか、楽しい子は何が楽しいのか。具体的にそうやって聴いていけば分かりやす

	いかと思います。例えば、摂津市であなたが楽しみにしている行事は何ですか、毎日の生活で楽しいところは何ですか、近所の人で楽しい人がいますか、というように具体的に質問すると子どもたちは答えやすいし、なんとなく全体像も見えていくと思います。 市民意識調査も、もう少し具体的に質問した方がよかったのでは、と今さらながら思いましたので、ぜひ榎谷会長の意見を取り入れてください。お願いします。
柏原委員	私も同感です。私も小学生から、若い人たちがどう感じて自分たちのまちで生活をしているのかということを、特に現在のこどもまんなか社会において子どもの表明権をととても大事にされていますので、子どもたちの生の声をもっと引っ張り出していくことが重要だと思います。どうぞよろしくお願いします。
川上委員	ワールドカフェで大阪人間科学大学の学生さんが参加されることは確定でしょうか。
事務局 (有場副理事)	はい。
川上委員	募集する際に、大阪人間科学大学の学生さんも参加される予定だという文言を入れるのはいかがでしょうか。以前、第四中学校の生徒さんと地域の方がおしゃべりしたのがすごく楽しかったと、参加された方が言っていました。そのため、そのように書けば、若い人も来るならしゃべりたいという方やどうせお年寄りばかりだからと思って参加しないという方もいるかもしれないので、そのような呼びかけをすると効果的ではないかと思いました。
榎谷会長	久副会長からのご指摘をいただき、結構活発にご意見を出していただきました。ぜひ事務局で前向きにご検討いただきたいと思いますので、よろしくお願いします。 他になれば、次の案件に移らせていただきます。その他ということで、事務局のから何かございますでしょうか。
事務局 (古賀副理事)	次回の審議会のご案内になります。まだ確定ではありませんが、令和8年1月頃を予定しております。具体的な日時が決まりましたらお示しさせていただきますが、事前に 別途日程調整を依頼させていただきますので、引き続きよろしくお願いいたします。 また、中学生アンケートやワールドカフェについても、先ほどからご意見いただきましたものを取り入れながら進めていきたいと思っています。引き続きよろしくお願いいたします。以上でございます。
榎谷会長	ワールドカフェは、先ほどの資料にお示しいただいた日程どおり行われます。各委員の皆様もご都合がつくようであれば、ご参加いただけますと幸いです。また、皆様の関係先の方々にも参加の呼びかけをいただけますと、いろいろな層からの多様なご意見をいただくことができるのではないかと思いますので、その辺りもご配慮いただきますように、併せてよろしくお願いいたします。 それではこれをもちまして、第1回摂津市行政経営戦略審議会を閉会いたします。ありがとうございました。